

表2-2-3 NO₂環境基準及び環境目標値達成率の推移(自排局)

区分/年度	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
達成率(%)	96.6	96.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	96.2
達成局数/測定局数	28/29	28/29	28/28	27/27	27/27	27/27	27/27	26/26	26/26	25/26
目標値達成率(%)	37.9	34.5	46.4	37.0	33.3	63.0	48.1	73.1	57.7	69.2
達成局数/測定局数	11/29	10/29	13/28	10/27	9/27	17/27	13/27	19/26	15/26	18/26

(環境基準等の評価は有効測定局を対象とした。)

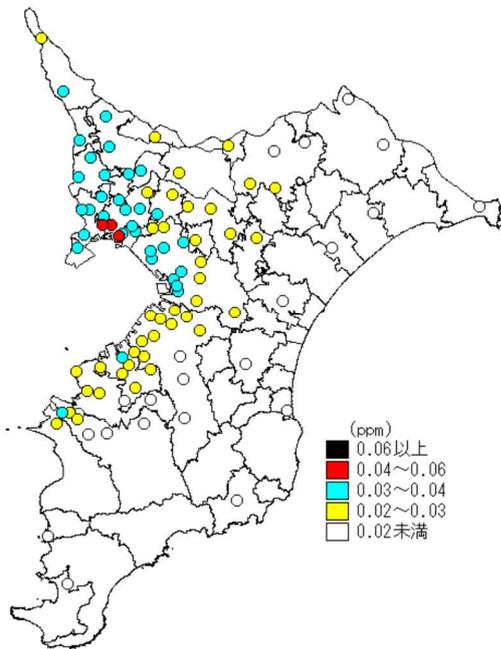


図2-2-9 NO₂98%値の分布(一般局)

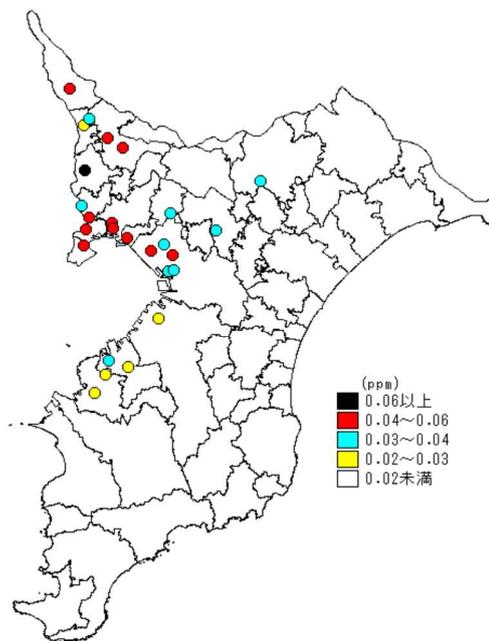


図2-2-10 NO₂98%値の分布(自排局)

(6)年平均値等の濃度上位局

平成26年度から30年度までの一般局における年平均値上位5位を表2-2-4に、年最高値上位5位を表2-2-5に示した。年平均値は、5年連続で市川二俣局が1位となっており、地域的には東葛、葛南地域の局が3位以内に入ることが多かった。年最高値も年平均値と同様、東葛、葛南地域の局が3位以内に入ることが多かったが、30年度は、長生・夷隅地域の勝浦小羽戸局が1位に、3位及び4位には君津地域の局が入った。

表2-2-4 NO₂年平均値上位5位(一般局)

(ppm)

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	市川二俣	0.021	市川二俣	0.020	市川二俣	0.019	船橋若松 市川二俣	0.019	市川二俣	0.018
2	船橋若松 習志野谷津 浦安猫実 宮野木	0.019	浦安猫実 船橋若松	0.019	船橋若松	0.018	浦安猫実	0.018	浦安猫実 船橋若松	0.017
3	船橋南本町	0.018	船橋南本町 習志野谷津	0.018	浦安猫実 船橋南本町	0.017	船橋南本町	0.017	船橋南本町	0.016
4	市川行徳駅前 流山平和台 松戸根本 市川新田	0.017	流山平和台 市川行徳駅前 松戸根本	0.017	宮野木 習志野谷津 市川行徳駅前	0.016	松戸根本 習志野谷津 市川行徳駅前 市川新田	0.016	市川本八幡 市川行徳駅前 習志野谷津 君津人見	0.015
5	船橋印内 寒川小学校 市川本八幡 市原岩崎西	0.016	宮野木 市川本八幡 市川新田	0.016	市原岩崎西 市川本八幡 市川新田 松戸根本 流山平和台 真砂公園	0.015	野田市野田 寒川小学校 船橋印内 市川本八幡 宮野木 流山平和台	0.015	野田市野田 流山平和台 松戸根本 市川新田 宮野木 寒川小学校	0.015

表2-2-5 NO₂年最高値上位5位(一般局)

(ppm)

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	習志野谷津	0.092	香取新島	0.113	千葉寒川	0.091	松戸根本	0.089	勝浦小羽戸	0.170
2	市原岩崎西	0.086	市川二俣	0.104	船橋若松 市川行徳駅前	0.090	市川二俣	0.087	船橋南本町	0.089
3	千葉宮野木	0.081	印西高花	0.094	浦安猫実 船橋南本町	0.089	船橋南本町	0.086	富津下飯野	0.084
4	袖ヶ浦長浦	0.080	市川新田 習志野谷津	0.085	千葉蘇我	0.088	浦安猫実	0.084	君津人見	0.080
5	君津坂田	0.078	浦安猫実 船橋若松	0.082	船橋丸山 千葉今井	0.085	市川新田	0.083	市川行徳駅前	0.075

表2-2-6に自排局における年平均上位5位を、表2-2-7に年最高値上位5位を示した。年平均値は、松戸上本郷(車)局が1位、野田宮崎(車)局が2位となった。年最高値は松戸上本郷(車)局が0.1ppmを超え1位となった。

表2-2-6 NO₂年平均値上位5位(自排局) 局名の(車)は省略

(ppm)

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値	局名	年平均値
1	野田宮崎	0.029	野田宮崎	0.031	野田宮崎	0.028	野田宮崎	0.028	松戸上本郷	0.035
2	船橋日の出	0.028	船橋日の出	0.027	船橋日の出	0.025	船橋日の出	0.026	野田宮崎	0.027
3	松戸上本郷	0.027	松戸上本郷	0.025	柏大津ヶ丘	0.023	松戸上本郷	0.024	船橋日の出	0.023
4	柏旭 柏大津ヶ丘	0.025	柏旭 葎川自排 柏大津ヶ丘	0.024	葎川自排 松戸上本郷 真砂自排	0.022	柏旭 柏大津ヶ丘	0.022	柏大津ヶ丘	0.021
5	千葉市役所自排 船橋海神 葎川自排	0.024	船橋海神	0.023	浦安美浜 市川市市川 柏旭	0.021	市川市市川 葎川自排	0.021	柏旭 千葉中央	0.020

表2-2-7 NO₂年最高値上位5位(自排局) 局名の(車)は省略

(ppm)

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値	局名	年最高値
1	船橋日の出	0.126	船橋日の出	0.119	船橋日の出	0.117	船橋日の出	0.121	松戸上本郷	0.114
2	千葉市役所自排	0.105	千草自排	0.099	浦安美浜 真砂自排	0.097	野田宮崎	0.100	船橋日の出	0.099
3	千草自排	0.092	野田宮崎	0.098	野田宮崎	0.090	浦安美浜	0.095	浦安美浜	0.084
4	真砂自排	0.091	習志野秋津	0.095	千草自排	0.089	市川行徳	0.090	木更津請西	0.082
5	佐倉山王	0.087	真砂自排	0.091	習志野秋津	0.088	市川市市川	0.089	千草自排	0.081

(7)NO₂/NO_x比

工場、自動車等から環境大気中へ排出される窒素酸化物(NO_x = NO₂ + NO)の多くはNOであり、大気環境中のNO₂の大部分は大気中に排出されたNOが酸化されて生成したものが占める。このことから、一般に発生源の近傍にある測定局ではNO₂よりNOが高く、発生源から離れた測定局ではNOよりNO₂が高いと考えられる。すなわち、各測定局のNO₂/NO_x比から、その測定局への発生源の影響の度合いを推定することができる。

NO₂/NO_x比別の測定局数割合を図2-2-11に示した。一般局の場合、比率は70%~80%台が多く、70%未満は10%以下である。一方、自排局では60%~70%台が多く、一般局と自排局とでは比率が異なっていた。

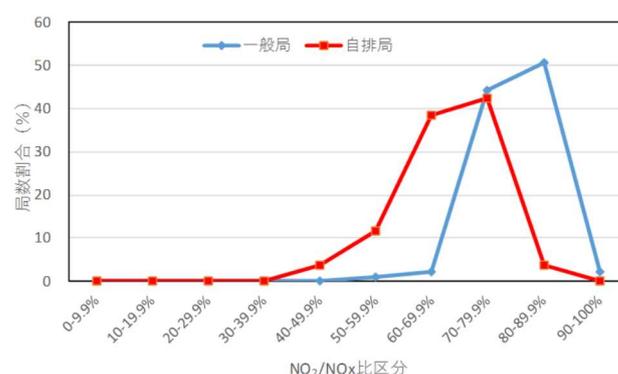


図2-2-11 NO₂/NO_x比別測定局数割合

NO₂/NO_x比の地理的分布を図2-2-12、図2-2-13に示した。図2-2-12のとおり一般局においては、北総地域の香取新島局及び長生・夷隅地域の一宮東浪見局が90%以上であった。逆に葛南地域の船橋高根局、千葉地域の宮野木局、佐倉直弥局は70%未満であった。

図2-2-13より、自排局においては、全般的に一般局よりNO₂/NO_x比が低く、80%以上であったのは市原五井(車)局のみであった。60%未満の局は、野田宮崎(車)局、柏大津ヶ丘(車)局、佐倉山王(車)局、成田花崎(車)の4局であった。

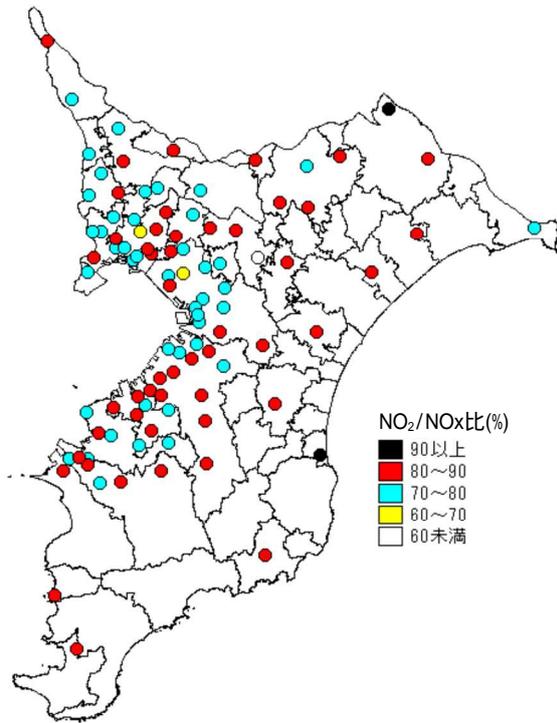


図2-2-12 NO₂/NO_x比の分布(一般局)

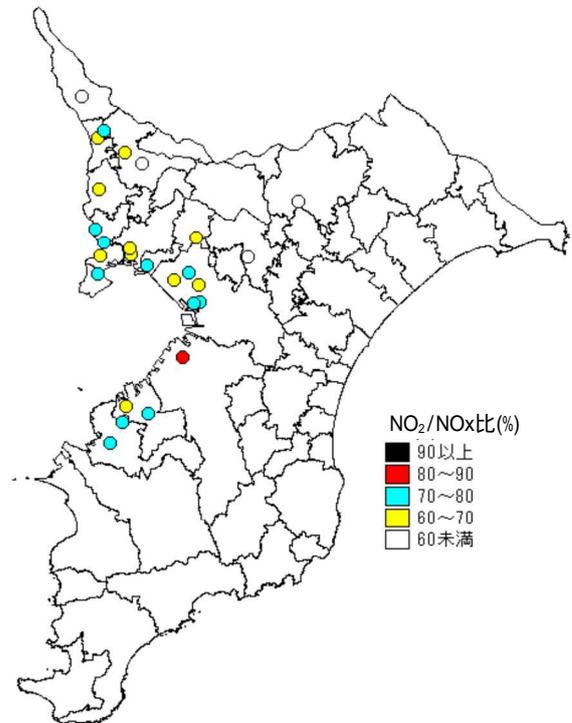


図2-2-13 NO₂/NO_x比の分布(自排局)

(8)NO₂/NO_x比別の測定局数割合の経年推移

昭和58年度から平成30年度までのNO₂/NO_x比の経年変化を図2-2-14に示した。一般局は昭和58年度から平成11年度頃まではNO₂/NO_x比70%以上の出現率は10%前後であったが、12年度頃から増加傾向となり、25年度では90%を超える出現率となった。一方、NO₂/NO_x比60%未満の割合は、昭和58年度から平成13年度までは50%前後であったが、13年度以降、減少を続け22年度から0%となった。自排局についてはNO₂/NO_x比60%未満の出現率が8年度まで100%であったが、以後減少し、30年度は10%強となった。当初、出現率0%であったNO₂/NO_x比60~70%は9年度から、NO₂/NO_x比70%以上は19年度から出現し始めた。

経年的には、NO_xに占めるNO₂の割合が一般局、自排局ともに増加していた。

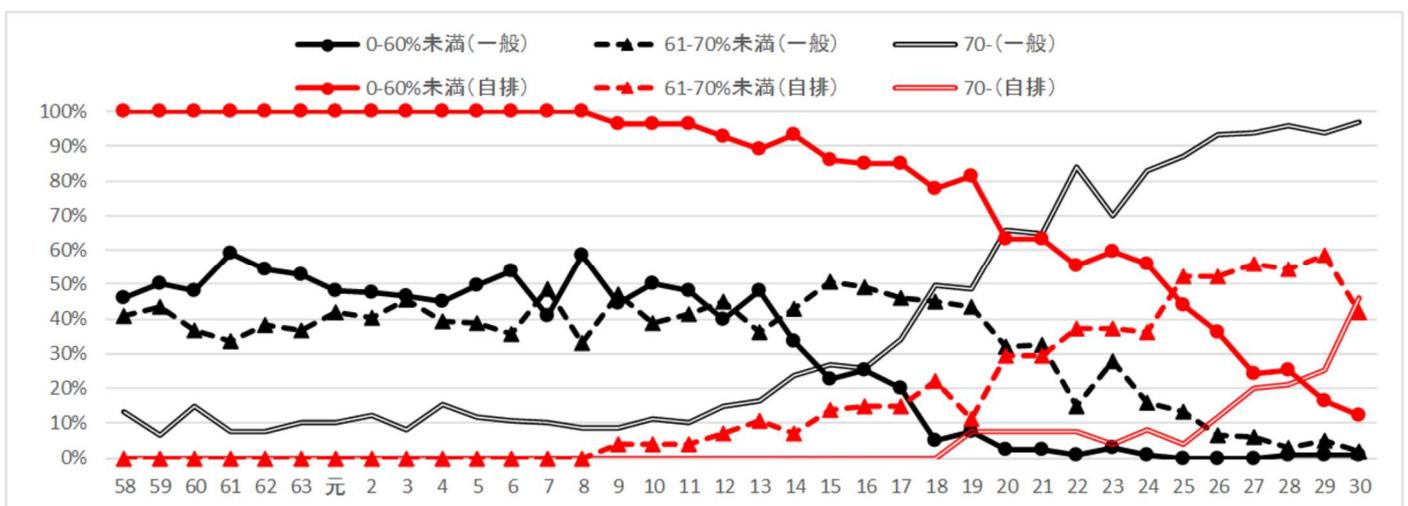


図2-2-14 NO₂/NO_x比別の測定局数割合の経年推移